

## 2 水産業の現状

### <本県の地勢>

本県は、東に太平洋を臨み、西部一帯は奥羽山脈、北東部には北上山地、南部には阿武隈山地が連なっており、北上川、鳴瀬川、名取川、阿武隈川等の大河川が大崎平野や仙台平野を貫き、仙台湾や追波湾に注いでいます。

県土面積は7,286 km<sup>2</sup>で国土面積(377,947 km<sup>2</sup>)の1.9%を占め(H22.10.1現在、国土地理院調査)、海岸線は総延長約828 km(県土木部河川課調査)に及び、ほぼ中央部に突出した牡鹿半島を境に南北で異なる様相を呈しています。

北は複雑な屈曲を有するリアス式海岸、南は一部松島湾を除いて平坦な砂浜海岸が仙台湾を形成しています。

こうした山地、河川、海岸線が織りなす複雑な地形は、各地に景勝地を作り出すとともに、水産業においては、小湾を利用した養殖業や漁船漁業等が発達する基盤となりました。

一方、本県沖合は、黒潮分派、親潮分枝、津軽暖流等の寒暖流が交錯する生産性の高い海域であり、金華山・三陸沖漁場は世界四大漁場の一つとして知られています。

また、本県には全国的にも名高い塩竈、石巻及び気仙沼の特定第3種漁港をはじめ142の漁港と10か所の水産物産地卸売市場があり、世界有数の金華山・三陸沖漁場やリアス式海岸と砂浜海岸によって形成された沿岸の好漁場からの恵みとして多種多様な魚介藻類が水揚げされています。

### (1) 本県水産業の特徴

#### イ 漁業・養殖業

本県は、前面に広がる豊かな漁場及び遠洋漁場から集積される多種多様な水産物を活用して全国屈指の水産県として発展してきました。

牡鹿半島以北では、採介藻漁業や漁船漁業とともに、リアス式海岸特有の急深な小湾を利用して、かきやわかめ、ほたてがい等の養殖業が盛んに行われています。

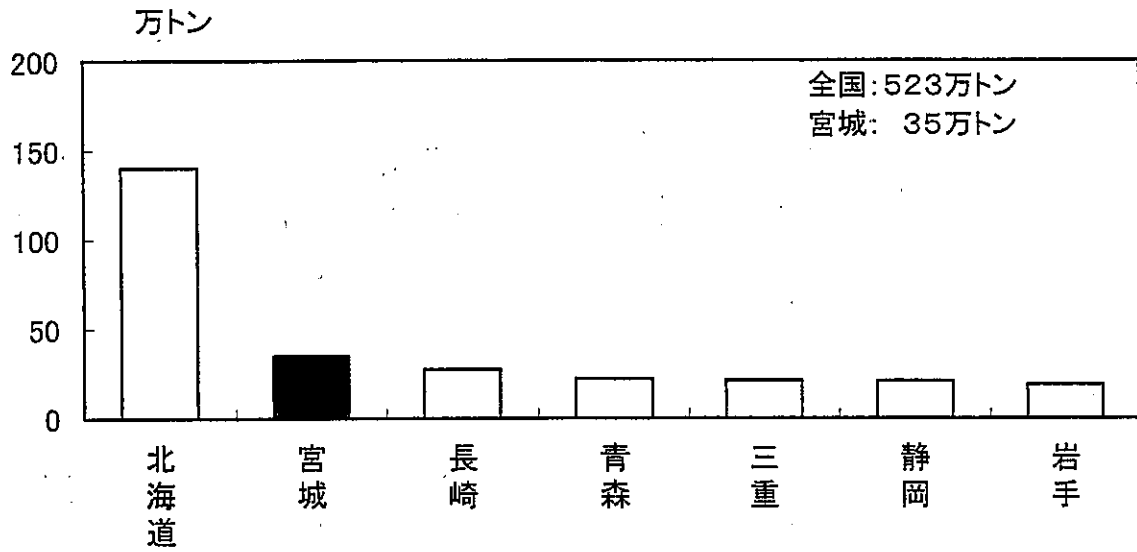
一方、牡鹿半島以南の広大な仙台湾においては、小型底びき網漁業や刺網漁業等の漁船漁業、遠浅の沿岸部を利用したのり養殖業等が盛んです。

また、牡鹿半島沖合の金華山・三陸沖漁場では沖合漁業が、さらに、遠く海外の漁場においても本県漁船による遠洋まぐろはえ縄漁業等の遠洋漁業が盛んであり、本県の遠洋漁船の船籍数は全国屈指です。

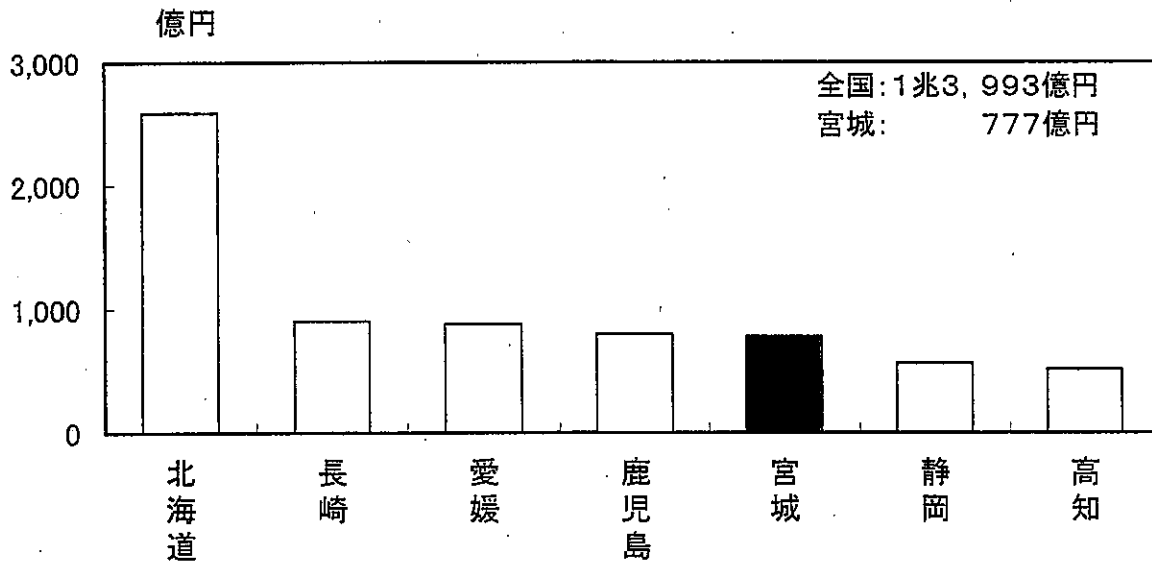
平成22年の海面漁業・養殖業生産量は約35万トン(全国523万トン、構成比6.6%)で北海道に次ぐ全国第2位、同様に海面漁業・養殖業生産額は、777億円(全国1兆3千993億円、構成比5.6%)で全国第5位に位置しています。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災により、本県の漁業・養殖業は壊滅的な被

害を受け、震災後の生産は大幅に減少しました。



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」  
図1 都道府県別の海面漁業・養殖業生産量 (平成22年)



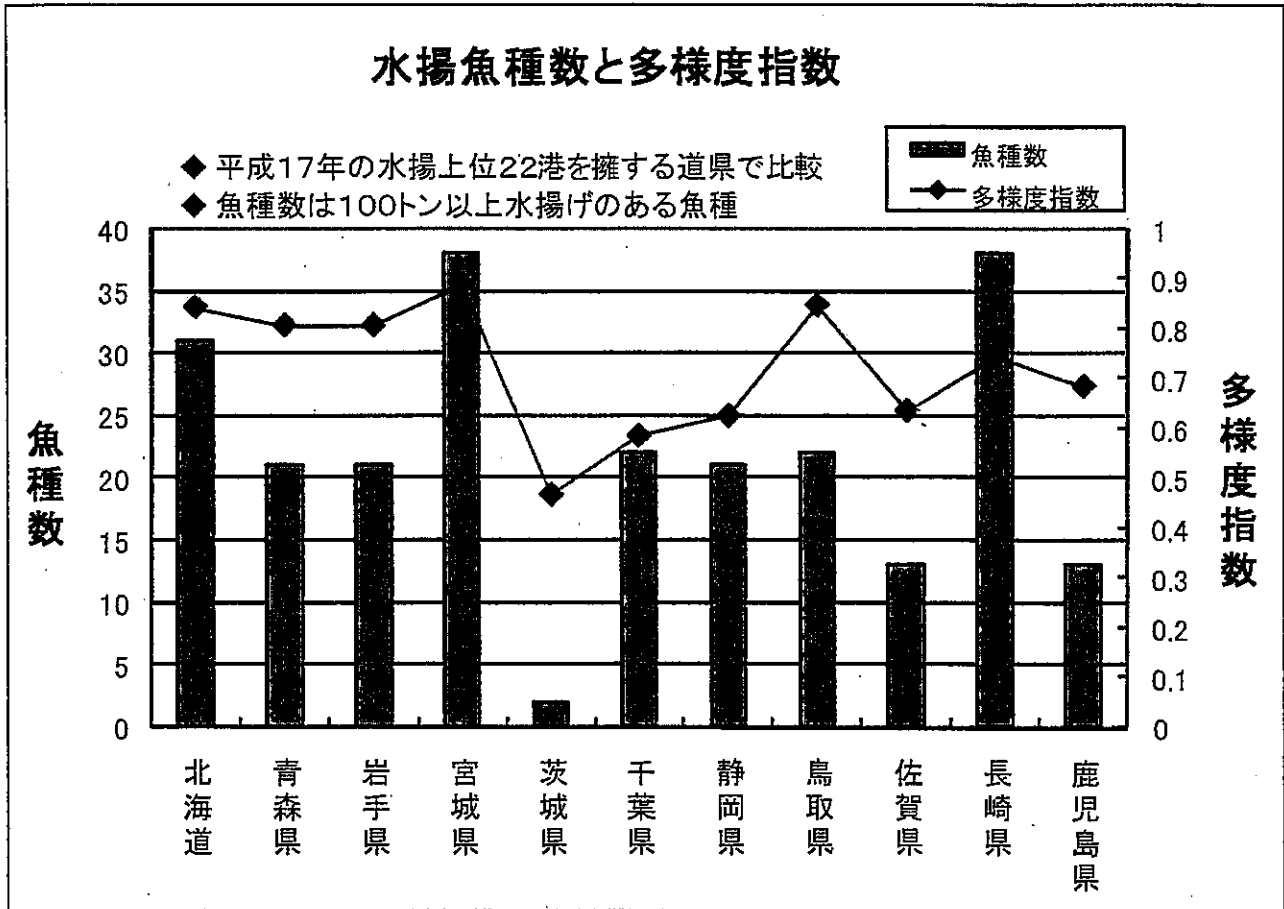
資料：農林水産省統計部「漁業生産額取りまとめ」結果  
図2 都道府県別の海面漁業・養殖業生産額 (平成22年)

(注) 漁業に関する数量及び金額を表す統計には「属人統計」と「属地統計」があります。  
「属人統計」は生産者の所在する都道府県(場所)ごとの集計であり、「属地統計」は水揚港の所在する都道府県(場所)ごとの集計です。  
なお、この資料では断りのない場合には、「属人統計」を使用しています。

(イ) 水揚げされる魚種の多様性

全国水揚上位22港を都道府県別に集計し、水揚魚種数と多様度指数を比較すると、本県の水揚魚種数及び多様度指数はともに上位にあることがわかります。(平成17年統計)

このことは、本県には特定の魚種に限られることなく、多種多様な魚介類が数多く水揚げされていることを示しています。



資料：農林水産省「水産物流通統計」(属地統計)から作成

図3 都道府県別の水揚魚種数と多様度指数(平成17年)

(注1) 水揚魚種数及び多様度指数は、水揚数量が100トン以上の魚種を対象として算出した。

(注2) 多様度指数には、シンプソンの多様度指数を用いた。

本指数は、水揚魚種が多くかつ魚種毎の水揚量に偏りが少ない(特定魚種に偏らない)ほど値は高くなり、1.0に近づく。

(ロ) 主な水産物の全国順位

本県には全国有数の生産量を誇る魚種が数多くあります。平成22年の海面漁業生産量は、さめ類、かじき類が全国第1位、さんま、おきあみ類、きちじ、あわび類等は第2位、かつお、たら類、さけ類が第3位となっています。

また、海面養殖業においても、ぎんざけ及びほや類が全国第1位、かき及びわかめは全国第2位です。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災により、漁船・漁具、養殖施設、産地魚市場などが大きな被害を受けたため、震災後のこれら水産物の生産は大幅に減少しています。

区分	魚種名	生産量(トン)	全国順位
海面漁業	さめ類	17,924	1位
	かじき類	3,634	1位
	さんま	28,188	2位
	おきあみ類	18,463	2位
	きちじ	320	2位
	あわび類	141	2位
	かつお	28,485	3位
	たら類	15,148	3位
	さけ類	4,892	3位
	まぐろ類	186,387	4位
	するめいか	14,280	4位
	いかなご	4,015	6位
海面養殖業	ぎんざけ	14,750	1位
	ほや類	8,663	1位
	かき(殻付換算)	41,653	2位
	わかめ	19,468	2位
	ほたてがい	12,822	3位
	こんぶ	1,394	3位

資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」他統計資料を改編

表1 本県における主な水産物の生産量と全国順位(平成22年 海面漁業・海面養殖業)

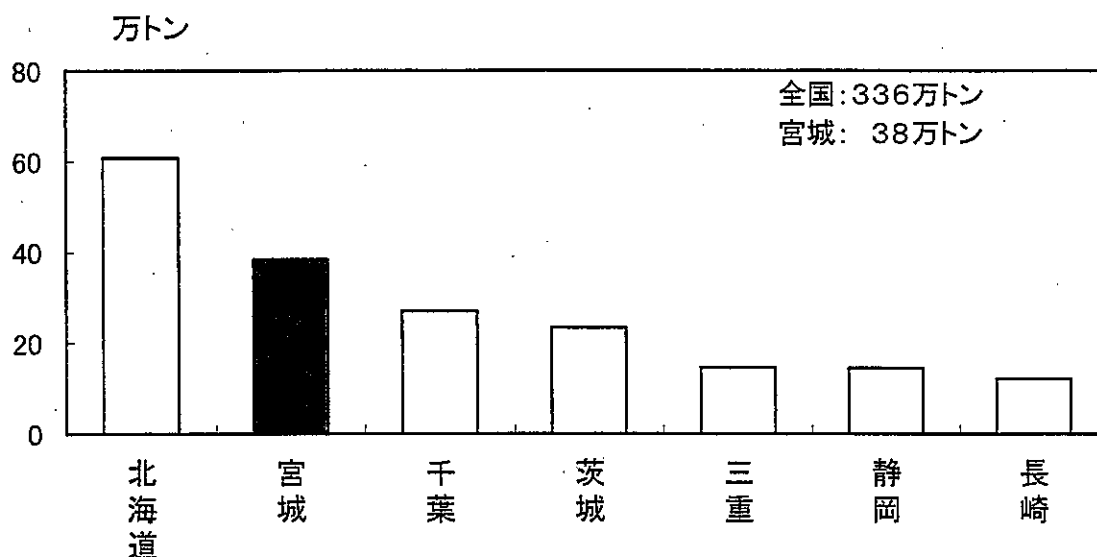
## ロ 水産加工業

本県水産加工業は、特定第3種漁港である塩竈、石巻及び気仙沼港における豊富な水揚げと高い技術に支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

本県漁業が200海里規制により北洋漁場から撤退した後は、加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも全国屈指の生産量を維持しています。

平成22年の水産加工品生産量は約38万トンで、全国第2位（全国336万トン、構成比約11.4%）です。

しかし、平成23年3月に発生した東日本大震災により、県内680カ所の水産加工場、冷凍冷蔵庫などが被害を受け、震災後の生産量は大幅に減少しています。



資料：農林水産省統計部「水産物流通統計年報」

図4 都道府県別の水産加工生産量（平成22年）

### (イ) 主な水産加工品と全国順位

本県には全国有数の生産量を誇る特徴ある水産加工品が数多くあります。

平成22年の生産量は、ささかまぼこで有名なねり製品であるかまぼこ類をはじめ、水産物調理食品、及びたら・すけとうだら塩蔵品は全国第1位、いか塩辛、水産物漬物、及び生鮮冷凍水産物（全魚種合計）等が全国第2位です。

品目		生産量(トン)	全国順位
ねり製品	かまぼこ類	50,115	1位
冷凍食品	水産物調理食品	23,458	1位
塩蔵品	さけ・ます	10,490	3位
	たら・すけとうだら	5,228	1位
その他の食用加工品	いか塩辛	6,247	2位
	水産物漬物	9,888	2位
生鮮冷凍水産物	全魚種合計	252,730	2位

資料：農林水産省「水産物流通統計年報」

表2 本県における主な水産加工品の生産量と全国順位（平成22年）